令和8年度地域ワークショップ開催結果（東海中学校区）

1　ワークショップの概要

（１）　ワークショップの目的

村民主体の行政を積極的に進めるため，地区ごとの住民との対話を通じて，地域の状況や課題を把握し，課題解決につなげる。

（２）　ワークショップのテーマ

「日常生活を安心して送るために　自分でできること」

（３）　日程と参加人数

■対象者：東海中学校区（石神地区，白方地区，真崎地区）の地域住民

■日時、会場、参加人数

実施日等	実施場所	参加人数
令和８年９月３０日（水）１８：３０～２０：３０	白方コミュニティセンター　会議室	１８人

（４）　タイムスケジュール

内容	時間
１　はじめに　（趣旨説明）	５分
２　村長挨拶	５分
３　自己紹介	１５分
４　テーマ説明	５分
５　懇談ルールの説明	５分
６　グループ対話①	２０分
（休　　憩）	１０分
７　グループ対話②	２５分
８　グループ意見の発表・村長からのコメント	３０分

2　グループ対話①　課題を出し合う

４つの小テーマに沿って課題を出し合った

グループ名	空き家	防犯	大雨や災害	その他
Ａグループ	・草が伸び放題 ・火事が起きるかもしれない ・野生動物の住みか ・不審者のたまり場 ・ゴミの不法投棄	・不審者 ・自宅の窓ガラスにひびが入っていた。 ・闇バイトなど	・近年の気候変動	・一人暮らしの老人について（事故発生時の連絡先等） ・免許返納者への支援について ・終活問題
Ｂグループ	・植物が伸び放題になり、近所迷惑になったり、犯罪につながったりする。 ・高齢化が進み空き家になり、孤独死が不安。 ・わが家が空き家になったらどうなるのか。	・不審な訪問販売や買い取り業者がいる。 ・市街地から外れた地域の防犯体制が不安。 ・交流がなく、近所の人がどういう人か分からない。	・温暖化による大雨や台風が年々激しくなり不安。 ・過去に経験したことがない天候による災害が起こり、停電や断水になる。	・自治会やボランティア団体など各種団体の後継者がおらず、活動が縮小していく。 ・70 歳代の活動者が少ない。 ・地域は未だに男性社会で、女性役員が少ない。 ・通学路を走る通勤車両が多く、通学の妨げとなっている。
Ｃグループ	・隣の空き家にハチの巣ができたら、駆除料は自腹になるのか	・集会所の落書き ・匿名・流動型犯罪グループ等、凶悪犯罪に対する対策	・浸水被害があった際に、どこに・誰に相談すればいいか。私有地の浸水が隣家まで及んでしまい、隣人から排水依頼があったが、大変だった。 ・過去、大雨時に冠水した道路があり混雑してしまった。事前に周知できていれば大雨時の混雑を防げるのではないか。	・道路の街灯が少ない。自転車などの事故に影響しているのではないかと不安。 ・自治会役員のなり手不足 ・身体が不自由になった際の相談相手
Ｄグループ	・火事、不審者、雑草などの問題が心配。	・子どもの通学路の安全面。登下校の見守りができていない。 ・親が一人暮らしで不安。	・ボランティアで活動する人が減っている。 ・災害発生時の初期対応は大丈夫か心配。	・高齢者の居場所づくり。気軽におしゃべりできる場があるといい。 ・高齢者の見守り。

3　グループ対話②　解決策を考える

グループ対話①で出された課題から選択し解決策を考える

Ａグループ

解決策を考える課題
①不審者について
②免許返納者への支援について

（解決策）
①不審者について
（自助・共助）
・住民同士の日常からのコミュニケーションが大事（距離感を保ちながら）
・自治会に加入して顔見知りに
・防犯パトロール
・あいさつ、声掛け
②免許返納者への支援について
（自助）
・移動販売を利用する（とくしまる等）
（共助）
・遠方の家族から了解をもらい、近所で送迎のお手伝い
（公助）
・デマンドタクシーを利用しやすく
・福祉バスを復活させる
・免許返納者への村からの補助制度
・高齢者お買い物ツアーを続ける

Ｂグループ

解決策を考える課題
①防犯について
②その他について

（解決策）
①防犯について
・警察によるパトロールの強化。
・警察への不審者の通報。
・犯罪を防止するための学校教育の充実。
　→教師に文句を言う親を教育すべきという内容に発展。
・自治会の防犯委員会による巡回の強化。
②その他について
・あいさつ、声掛け。
・自治会や地域の団体、行事や活動に参加してもらう。顔を合わせる機会を設ける。
・自治基本条例に基づく行政・自治会の対応促進。

Ｃグループ

解決策を考える課題

①「大雨・災害」について

・浸水被害があった際に、どこに・誰に相談すればいいか（私有地だと自分で対応が必要になるため）

・避難所への車以外の避難方法

・災害時、冠水箇所などの周知方法

（解決策）

①「大雨・災害」について

・事前に避難行動要支援者の情報をもらっているが、何かあったら要支援者個人からすぐ発信できるような体制が必要。
何かあっても声を上げない人がいることも想定されるため、その人たちが問題。
⇒声を出しやすいようなシステムも構築できるといい。

・近隣住民で事前に状況確認できる体制も必要ではないか。
⇒緊急時には、自治会未加入者含め互いに安否確認して回ることも必要と感じる。
⇒互いに安否確認・支援をするためには事前の情報提供が必要である。村として、避難行動要支援者の共有方法など、あらためて検討してもらえないか。

・大雨時、局所的に浸水する箇所が見受けられ、これはハザードマップには載っていないのではないかと思われる。
⇒どの住民でもわかるように、看板を設置してほしい。

Ｄグループ

解決策を考える課題

①「防犯」について

（課題）日常的に子どもや高齢者の見守りを強めていくため、人手を増やしたい。特に若い人に積極的に参加してほしい。

（解決策）

①「防犯」について

・日頃からコミュニケーションをとり、顔の見える関係づくりをする。

・地域の行事を利用し、参加者に声かけする。負担のない形で、楽しいことを PR する。

・現在参加している人から、口コミでつなげていく。

・X やインスタグラムなどの SNS を利用して、各自が発信していく。

・企業の参加を呼びかけ、若い世代の地域参加を促す。

４　発表と村長コメント

【Ａグループの発表⇒村長からのコメント】

①不審者について　②免許返納者への支援について

【発表】

・不審者については、「周りの人を知らないと不審者だと気づけない。不審者を見つけるには自分たちの近くに住んでいる人の顔が認識できていれば、この人見たことないなと気づくことができる」という意見が出た。そのためにはどうしたらいいかと考えると、一番できそうなものは声掛けやあいさつで、声をかければ顔を見ることができる。それぞれの人が出来て、お金もかからないので、声をかけることが第一歩であるとの意見にまとまった。

・免許返納者への支援については、高齢者が免許返納して買い物に行けない、家族が遠くにいて買い物に行くのが１か月に１回で大変などの課題がある。また、自分で歩いて行ける人でも、荷物を持って歩けないという場合もある。解決策としては、デマンドタクシーの利用や買い物ツアーが考えられ、自宅まで迎えに来てくれるとか、買い物ツアーの拡充とかをできたらよいのではないかとの意見にまとまった。

【村長コメント】

・不審者対策について、一般的に不審者や防犯対策というと防犯カメラをつけるとの意見が一番に出てくるが、そうではなくて普段からの声掛けが大事だということはそのとおりだと思う。昔は声かけ運動をやっていたが、今の時代、これがなかなかできそうでできない。地域コミュニティの声かけを皆さんで共有してもらって、最初は週初めとか時期を決めて実施して、だんだんに普通にできるようになれば理想的だと思うので、それはぜひやってほしい。これは一人でもできるし、地域でもできることで、それでできないところを、例えば防犯カメラとか警察との調整などは当然役場の仕事だと思う。それぞれ地域でできること、役場がやることを整理して、安全なまちの防犯対策をしっかりやっていきたい。それぞれの地域でぜひこういう話を持ち出して皆さんで協力してほしい。

・免許返納者への支援については課題だと思っていて、村のメニューとしては、デマンドタクシーを使うか、介護度が高い人には高齢者支援タクシーのチケットを出しているが、年間で数枚の話なので一年中全部使えるわけではない。デマンドタクシーとか福祉タクシー以外の違った形の公共交通がないかは色々考えている。民間のサービスが色々あるのでどういうものだったら東海村で取り入れられるか、民間会社と話をしなければいけないと思っている。自動運転を取り入れている自治体もあり、まだ早いという気もするが、可能性があるものは実験的にやってみたいと思う。村として新たな公共交通の形を模索している。買い物ツアーは試行的に実施しているところだが、今年の試行の状況を見て、ある程度グループが形成されて、買い物や食事はサロン活動につながるので、高齢者の皆さんが元気になってもらうという福祉的な要素はある。どういう風に広げていけば皆さんが使いやすくなるかは検証しながら続けていきたい。

【Ｂグループの発表⇒村長からのコメント】

①防犯について　②その他について

【発表】

・防犯については不審者がいたら躊躇なく警察に電話する。前に経験したのは、屋根がおかしいですねと言って、何もおかしくないのに修理させようとするもの。あなた誰と声かけしたら逃げていった。その時もすぐに警察に電話して近隣をパトロールしてもらった。警察もパトカーによるパトロールを定期的にやっていくことが大事だと思う。日にちや時間を決めて回るということが大事。そうすれば不審者は来ない。行政の方で対応をしてほしい。

・若い人が匿名・流動型犯罪グループとなり、躊躇なく殴ったり、殺したりしまう。子供の時からの教育が大事。正義感、しつけ。親を教育しなければならない。教師に文句を言う親が問題。学校の先生も信頼されれば子供たちを真剣に教育する。先生に敬意をもって信じる、先生も信じていただいてきちんとした教育に繋げていただくことが大事。

・その他としては自治会の役員にならない、自治会に加入しない、自治会にメリットがないと思っている人が多い、後継者がいないという問題。自治会に加入することが重要で、顔見知りになって行事に参加して、楽しくコミュニケーションを取れるし、防犯活動もやっている。この美しい村、安全安心なまちは行政と自治会で対応している。皆さんも一人一役ということで自治会に加入してその役割と責任を果たしてほしい。

【村長コメント】

・不審者については、犯罪につながる可能性があるので警察に通報してほしい。ただ、警察もなかなか忙しくて対応してくれないところもあると思う。危険を感じた場合は躊躇なく警察に頼ることは大事だと思う。警察も防犯連絡員とか防犯パトロールに頼っている部分もある。防犯協会を通して、警察は自分たちだけでは全ては手が回らないのでボランティア団体を応援している感じになっている。住民がやれるところは限られるが共助のところで一定程度やってほしいが、なり手がいないという問題もある。従来型の住民の共助だけで地域の安全が守れなくなってきているのは間違いないが、警察がすべて対応できるわけではない。それぞれどういうことができるかは話し合う時期に来ているのかもしれない。防犯対策をどうしていくのか警察署長と話をしていきたい。

・自治会に加入することが大きな意見となったが、自治会の加入問題は難しい。昭和の時代はそれが当たり前だったが、世代が変わってきてそこには戻れない。三世帯が同居していた時はそういうものだと伝わっていたが、世帯分離して生活が変わっていくとそういう伝承が家族の中でできていない。それを外部の方に教育してもらうのは難しいと思う。時代の切り替わりで、自分たちは親の面倒を見たが、子供には面倒見てもらえないという大変な世代。同じ世代で何ができるのか、次の世代には必要以上に求めすぎないが、一定のここまではやってほしいなど、無理のない範囲で下の世代にお願いすることは必要だと思う。必要以上のことを頼むと勘弁と言われてしまうのでそうならない程度の距離感を持つということが大事。地域もそうだがまずは家庭でそういう話をすることが大事だと思う。

・空き家の問題についても同じで、元気だから何とかなっているが、何ともならなくなっ

た時にいきなり発生してしまうもの。将来を見据えて話し合う時間が必要だし、今、話し合う時間が足りないと思っている。
・家庭教育に役場が関わることは難しいが、今日出た話は皆さんに考えてもらいたい重要なテーマ。地域でもそうだが家庭でもよく話し合うことは大事だということは伝えたい。

【Ｃグループの発表⇒村長からのコメント】

①「大雨・災害」について

【発表】

・「大雨・災害」時にどうやって避難するかについて考えた。まず、自分が避難するのが最優先だが、周りの人はどうなのか。自治会に入っていれば連絡を取る手段はあるが、自治会に入っていない人に手が伸びない。共助は自治会に入っている・いないは関係なくやるべきことだと思う。自分ができることとして、まず、自分が逃げるのが最優先。そのあとにせめて隣近所に声をかけていけばよいのでは。普段から隣近所と顔見知りになることが大事。
・避難にあたってアンダーパスや排水が追い付かずに水がたまる箇所があるが、それは地元の人でないとわからない。どうやって情報を伝えるのかが大事。「ここは水が溜まりやすい」などという看板があればよい。水が溜まらないように工事できれば良いが追い付かないと思うので、看板での表示をお願いしたい。
・避難行動要支援者の情報について、個人情報保護の観点から家族構成などの情報は民生委員でも把握していない。
・結論としては隣近所だけでも声を掛け合って顔見知りになっておけば、災害時にお互い助け合いやすいということを認識して生活していきましょうということ。

【村長コメント】

・避難所の開設は村で判断するが、これは自主避難所となるので、避難する人、しない人がいる。避難行動要支援者には村から直接、避難について声をかけているが、「自宅がいい」という人もいる。実際には、役場が把握できていない避難できない人もいると思うのでその対応が課題だと思っている。避難行動要支援者の定義が変わって村が把握しなければならない人が増えたので、今、個別に確認して把握に努めているところ。
・冠水の話は、東海村にアンダーパスはないが、低いところはある。村内各地に、国土交通省が付けてくれた浸水センサーがある。地点ごとに浸水の深さで色が変わるシステムになっていて、ホームページ上で浸水状況を確認することができる。また、細浦や竹瓦橋は事前に通行止めにするなどの対応もしている。ただ、雨水・排水対策が間に合ってないことは事実で、浸水箇所が増えてきている。基本的には雨水・排水対策の工事をやるし、貯留槽を作ったりしているが、根本的な対策はハード事業なのでお金も時間もかかる。冠水しやすいところは大雨が降った時は声をかけて避難をしてもらうなどの対応をしている。今、雨水・排水対策は真剣に考えて対応している。
・個人情報はなかなか難しい。取り扱いがどんどん厳しくなっている。法律の範囲の中でできる範囲でしっかりとサポートしていくしかない。誰一人取り残すことがないように対応をしっかりと考えていく。

【Ｄグループの発表⇒村長からのコメント】

①「防犯」について

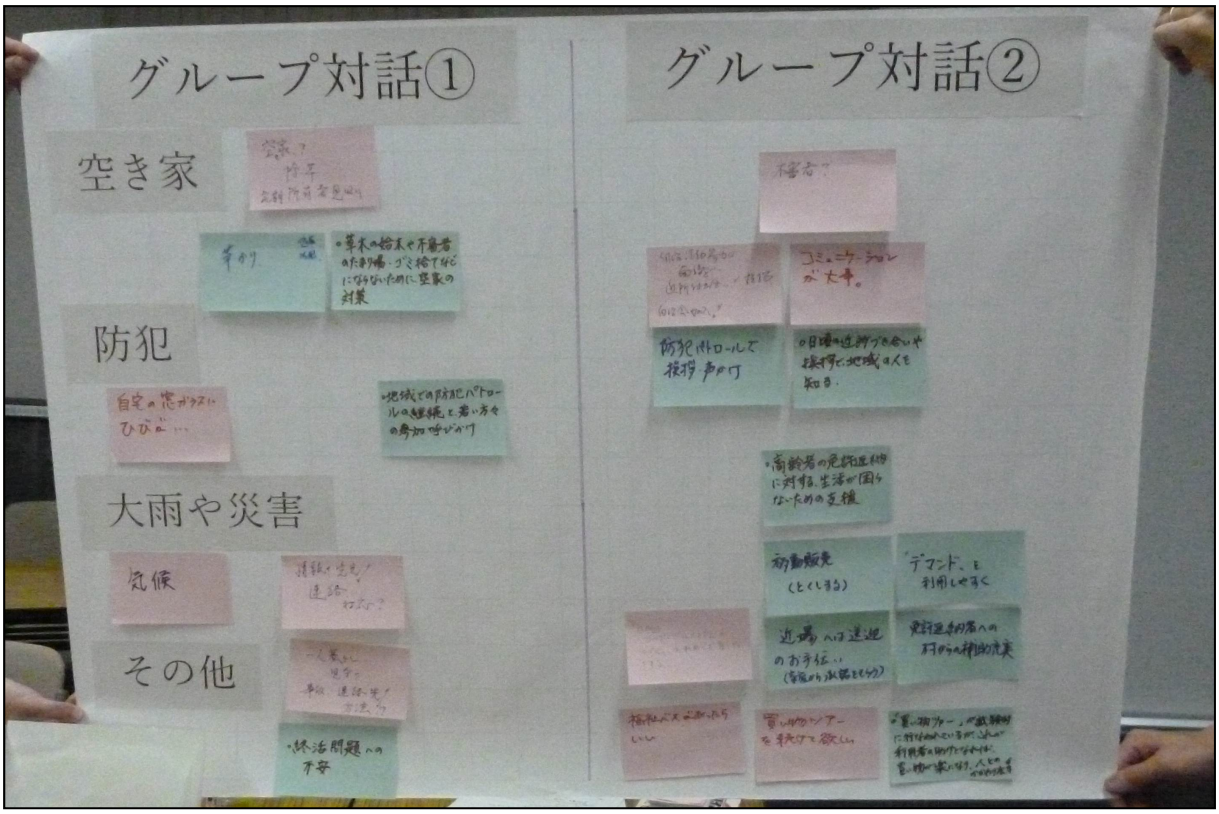
【発表】

・日常的に子どもや高齢者の見守り（防犯の観点）を強めていく必要がある。こういう見守りをすることで空き家対策や防災の備え、高齢者の居場所づくりもすることができる。そのためには人手が必要だが、人手を集めるのはなかなか難しい。特に若い人に積極的に参加してもらえるように誘導したい。顔の見える関係性やコミュニケーションが必要。その中で最終的にどうすれば良いかだが、一つの手法として、X やインスタグラムなどの SNS を利用して、各自が発信していくことが重要。あとは地域の企業の参加を呼びかけ、若い世代の地域参加を促すという意見が出た。

【村長コメント】

・地域の見守り活動を大事に思っているが人が足らないこと、若い人に活動を知ってほしいが届かないことは、各グループで共通した課題となっていた。イベントをやることで活動を知ってもらい、顔見知りになって伝えることは一つの手段だが、皆さんがやっている活動を知ってもらうのはなかなか難しい。若い人は SNS を利用しているが、だからといってボランティア活動について掲載しても目に留まるか分からない。まずはイベントに来た人に一人ずつ口コミで声かけをしていくのが一番だと考えている。声をかけて輪を広げていくしかない。村としても皆さんが活動していることを広く知らしめるということは、広報誌などでできる。村の広報誌も、最近では読み物として定着してきていて、特集ページで紹介することで、知ってもらうことはできる。側面的に皆さんの活動を取り上げることで、より多くの村民に知ってもらうということはこれからもやっていきたいと思っているし、情報発信として村として取り組んでいくので、それぞれの地域でもできる範囲で皆さんも頑張っていただきたい。

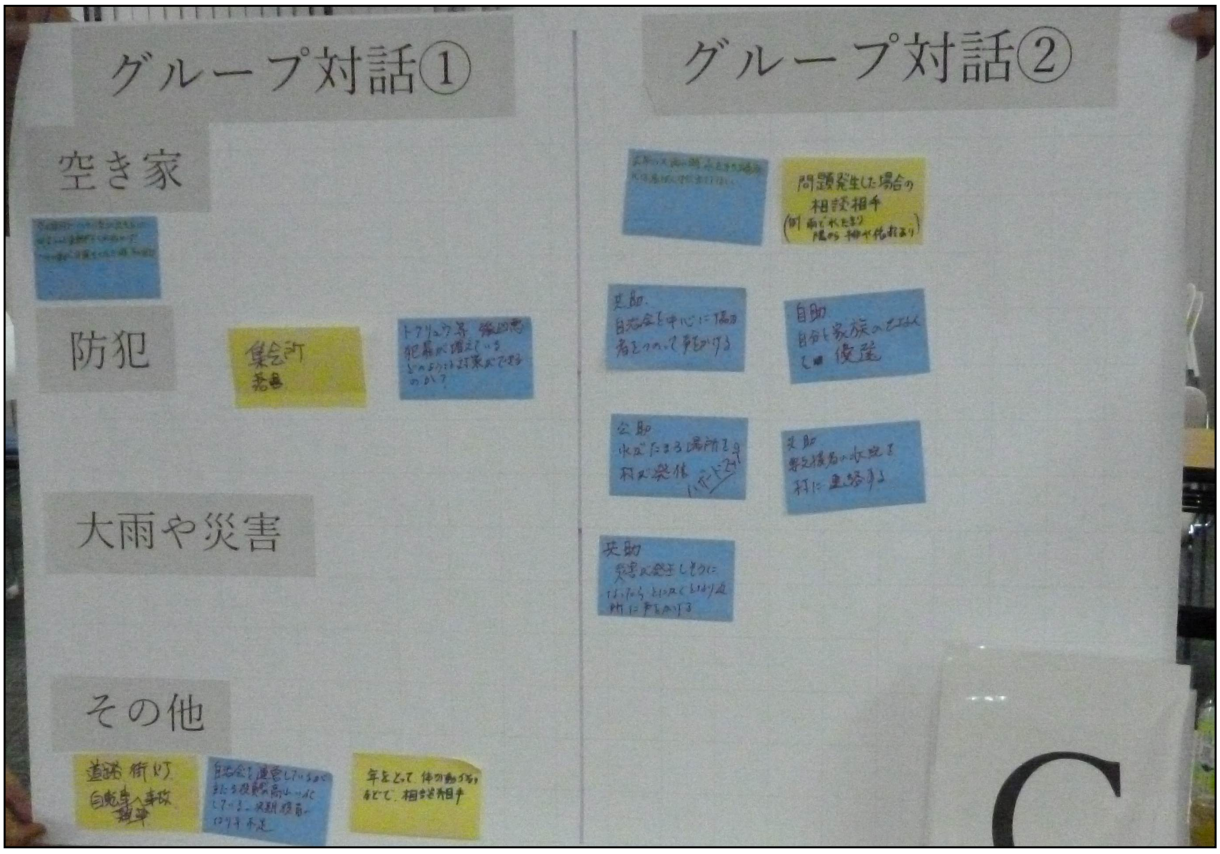
【Ａグループ】


グループ対話①
空き家
防犯
大雨や災害
その他
グループ対話②
コミュニケーションが大事。
防犯パトロールして挨拶声かけ
動画販売
（とくいまる）
「デマンド」を利用しやすく

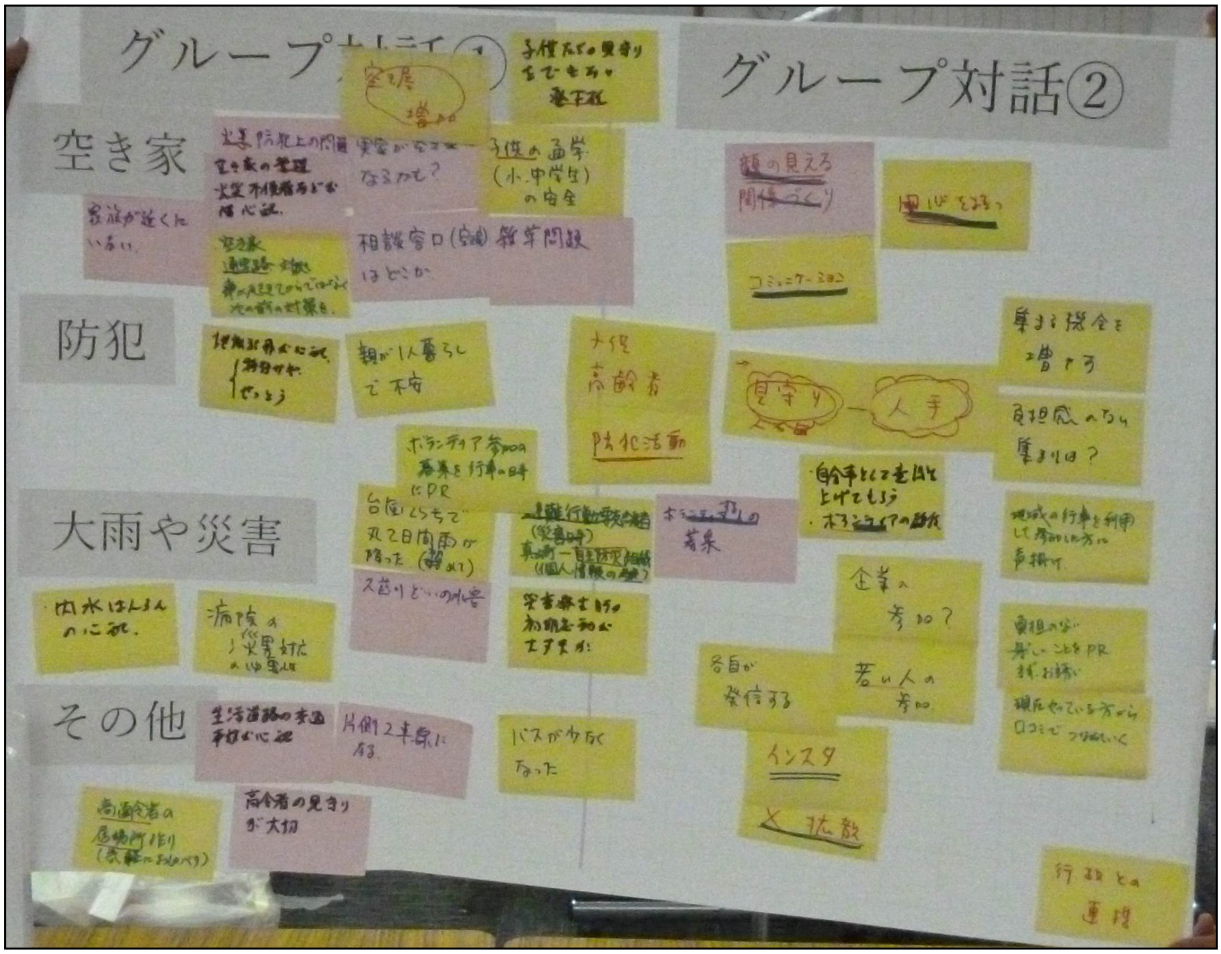
【Ｂグループ】


グループ対話①
空き家
防犯
大雨や災害
B
グループ対話②
学校教育
（交通の防止）
地域交流会を実施
あいさつ運動
コミュニケーションの必要性

【Ｃグループ】



【Ｄグループ】



5　アンケート結果

回答数18人

10～20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
0 人	0 人	0 人	3 人	6 人	9 人

問 1:全体について

・本日のテーマおよび内容全体について、どのように感じましたか。

［5］大変満足	［4］満足	［3］どちらでもない	［2］やや不満	［1］不満
9 人（50%）	5 人（28%）	4 人（22%）	0 人（0%）	0 人（0%）

自由意見（その理由や、ご感想を自由にお書きください。）

・テーマ内容の確認、前向きになれる意見交換ができ良かった。
・限られた時間だったが、グループワークが活発に行われた。
・身近な生活の中でのテーマだったので、「自分ごと」として具体的な話ができた。
・解決しやすく、意見を出しやすいテーマで取り組めばいい。
・意見の発信はできるが、改善の方法が分からない。
・とても良かった。
・色々な課題についてグループ討論する機会ができた。
・日頃の不安を話すことができてよかった。
・地域の中の動きが見えないところ、話し合いにより知る機会となり、とても良いテーマだった。
・最近の重要テーマであり、良く話し合いができた。
・色々な課題を対話形式で和気あいあいとできたことは良かったと思う。
・常日頃考え困っていることが多い中で、発表の場になった。
・色々な意見が出て、問題共有できた。
・色々な不安、課題を話し合い勉強になった。
・参加者全員が問題意識を持っていた。
・地域の課題が村政につながる機会になったと思う。
・テーマが大きく漠然としていて、どんなことを出せばいいのかよく分からなかった。
・テーマが大きすぎると思う。
・例題項目を説明されて、グループで意見が出始めた。
・項目がいくつかあると、それについて意見が出て、さらにその他の項目も出るようになった。

問 2:グループワーク形式の話し合いについて

・グループワーク形式による話し合いについて、満足していただけましたか。

［5］大変満足	［4］満足	［3］どちらでもない	［2］やや不満	［1］不満
8 人(44%)	9 人(50%)	1 人(6%)	0 人(0%)	0 人(0%)

自由意見(その理由や、話し合いの中で感じたこと(進行含む)があればお書きください。)

・参加者の地域状況を知ることができた。
・時間配分の説明があって、スムーズだった。
・グループ内で、活発に意見交換ができた。
・話し合いは良好だが、発表は必要か？
・色々な地域、人とのふれあいができて良かった。
・各自、多くの意見が出たので良かった。
・村に住んで 50 年以上になるが、知らない方と地域の問題について話し合う機会になってよかった。
・色々な意見を沢山話し合いができ、今後も導入してほしい。
・皆それぞれに意見を述べることができ、とても良いグループワークだった。
・各グループから出る内容が共通するのも、大切な事案。
・新しいコミュニケーションをとることができて良かった。
・各自の色々な意見が聞けて良かった。
・様々な意見を聞く機会になり、これからの活動の参考になった。
・課題に対して、個人の経験や実情を話すと、更に共感する話が出てきたことで、話し合いが膨らんだ。
・意見が出ることがいいと思うが、話が色々な課題に広がって長くなる時は進行が止めないと終わらない。
・課題を話したときに、解決策まで話してしまうため、議題を決めて解決策を出す流れにするのは難しかった。

問 3:自分ごととしての捉え方について

・本日のテーマや話し合いを通じて、地域の課題を「自分ごと」として捉えるきっかけになりましたか。(いずれか一つに○)

[５] 強く感じた	[４] まあまあ感じた	[３] どちらでもない	[２] あまり感じなかった	[１] 全く感じなかった
10 人(55.6%)	5 人(27.8%)	1 人(5.6%)	0 人(0%)	1 人(5.6%)

※1 名未回答

自由意見(具体的に「自分ごと」として感じたことや、今日からやってみたいと思ったアイデアなどがあればお書きください。)

・自主的に自分自身を確認して地域の交流をしていきたい。
・自分で今できることをやる。
・健康でいることが基本だと思う。
・防犯パトロールでの声掛け、挨拶を心がける。
・ワークショップはいつも同様の課題、対策となってしまう。目新しい意見は出てこない。
・プライバシーを盾に相互交流が図られていない現状で、他人との交流が強めることができるか?
・人との交流が大切であることを改めて感じた。
・自分でも心配していることを皆さんも同じ問題としていることが分かり、対応についても知ることができて大変勉強になった。
・各地区の課題を認識できた。
・今後の対策が重要である。
・若い者の意見を話せたことがよかった。
・高齢者の切実な悩みを聞くことができた。参考にできるよう心がけたい。
・後継者育成ができないので、在職中に教育していただけると幸いです。
・あいさつなどの声掛けを積極的にやる。
・地域のことは地域でやっていく意識。先日の LINE でみた、「道路状況をお知らせください」の件は、自分ごととして生活していくことが大切であると思った。
・自治会として、住民のコミュニケーションを更に強化したい。
・子供、高齢者の見守り、防犯対策等、顔の見える関係性が改善のきっかけになると思う。
・昭和に戻れないという村長の言葉が印象的だった。これからの取り組みの難しさを実感している。
・距離感や、家の中で話すことが大事だと実感した。
・課題・解決策とも、皆さんの考えていることや想いが同じであることを感じた。
・解決策を出し合った時に、自分が考えていた方法以外の意見があり参考になった。
・解決策の例としてコミュニケーション(身近な声掛け、挨拶等)をとることが大切であると皆さんも考えているが、プライバシーの侵害という壁があるため、どこまでやればいいのか、なかなか踏み込めないとの意見が出た。